

## コーンウォールは今日も…

吉田 真人

二年振りのG7がイギリス・コーンウォールのカービスベイで開かれた。コーンウォールはブリテン島の南西部に突き出た半島部の呼称で、行政区でもある。北側はケルト海（大西洋）に、南側は英仏海峡に面し、突端部の岬はLand's Endと呼ばれている。

この地へは二回訪れた。

最初は三十数年前のイギリス勤務時代に年末年始の休暇で。イギリスの冬は雨期で、且つ日も短く、一日中薄暗い。ロンドンから西の方に行けば多少は改善するかと思っただが、全くそんな事はなく、連日ほぼ雨また雨。

ホテルでは大人と子供の扱いが峻別されており、子供は六時から別室で夕食、その後の大人の時間のレストランには同伴できない。大晦日にはディナーが延々と続き、隣席の客と盛り上がり、カウントダウンと共にブランデーが供され最高潮に達し新年を迎えた。

二回目は、最近、と言ってももう八年前に、早稲田の老人学級「英詩を愉しむ」の有志と初秋に。イギリスに造詣の深い友人達が企画した旅で、テート・セントアイビス（一九九三年に開設。ロンドンにあるテートギャラリーの別館）やグリーンウェイハウス（アガサ・クリステイの別宅、二〇〇二年にナショナルトラストに寄託された。隣のデボン州トーキー郊外にある）の訪問等かなりオタク度の高い旅である。連日雨というわけではなかったが、傘は大いに活躍した。

二回とも最西端のLand's Endも訪問。

同じで面白い看板を見つけた。曰く、

“Local weather Forecast

If you can see the Scilles, it is going to rain.

If you can't see them, it is raining.”

(Scilles は沖合45kmの島嶼群)



Land's End

尚、イギリス名物のアフタヌーンティーに供されるスコーンには、苺ジャムと共にコーニッシュ・クロテッドクリームをつけるのが正統である。海霧を含んだ牧草を食んだ牛の乳から作られているので「otteリ」しているのだらう。